

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程)

教科	数学	学年	1	年	時間数	140	時間
----	----	----	---	---	-----	-----	----

教科書名	未来へひろがる数学1 未来へひろがる数学2	出版社名	啓林館
------	-----------------------	------	-----

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	知	思	主		
一 学 期	4	1章 正の数・負の数 1節 正の数・負の数	1 0より小さい数	○	○	◎	<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> 負の数の意味を理解し、正の数・負の数の四則計算を学びます。 文字を使って、数量や数量の間の関係を一般的に表し、その計算方法を学びます。 方程式とその解について理解し、方程式の解法を学びます。 図形の性質や、基本的な図形の作図方法について学びます。 資料の整理の仕方について学びます。	
		2節 正の数・負の数の計算	2 正の数・負の数で量を表すこと 3 絶対値と数の大小	○	○	◎		
		1 正の数・負の数の加法、減法	◎	○	○			
	5	2 正の数・負の数の乗法、除法	◎	○	○			
		3 いろいろな計算 4 数の世界のひろがり	○	◎	○			
		3節 正の数・負の数の利用	1 正の数・負の数の利用	○	◎	○		
	中間考査(5/18～5/19)		◎	○				
2章 文字の式 1節 文字を使った式	1 数量で文字を表すこと 2 文字式の表し方	○	○	◎				
6	2節 文字式の計算	3 式の値	◎	○	○			
	1 文字式の加法、減法	◎	○	○				
	2 文字式と数の乗法、除法	◎	○	○				
3 関係を表す式		◎	○	○				
期末考査3年(6/28～7/2)、1・2年(6/29～7/2)		○	◎					
7	3章 方程式 1節 方程式	1 方程式とその解 2 方程式の解き方	○	◎	○	<p style="text-align: center;">学 習 の 到 達 目 標</p> ・正の数・負の数の四則計算ができる。 ・文字の式の意味について理解し、文字式の計算ができる。 ・比例・反比例を式やグラフなどで表し、具体的な事象の考察に用いる。 ・基本的な図形の性質を理解する。 ・資料を整理し、活用する力を身に付ける。		
	2節 方程式の利用	1 方程式の利用 2 比例式の利用	○	◎	○			
	夏季休業日(7/21～8/24)							
二 学 期	8	4章 変化と対応 1節 関数	1 関数	◎	○		○	<p style="text-align: center;">評 価 の 観 点</p> <p style="text-align: center;">知識・技能</p> 数学的活動を通して、数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
		2節 比例	1 比例の式 2 座標	◎	○		○	
		3 比例のグラフ	◎	○	○			
	9	3節 反比例	1 反比例の式	◎	○		○	
		2 反比例のグラフ	◎	○	○			
		4節 比例・反比例の利用	1 比例・反比例の利用	○	◎	○		
	中間考査(10/5～10/6)		○	◎				
10	5章 平面図形 1節 直線と図形	1 直線と図形	○	○	◎	<p style="text-align: center;">思考・判断・表現</p> 数学的な見方・考え方を働かせ、数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し、統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。		
	2節 移動と作図	1 図形の移動	◎	○	○			
	2 基本の作図	○	◎	○				
11	3 図形の移動と基本の作図の利用	○	◎	○				
	3節 円とおうぎ形	1 円とおうぎ形の性質	◎	○	○			
	2 円とおうぎ形の計量	◎	○	○				
2 円とおうぎ形の計量		○	◎	○				
期末考査3年(11/29～12/3)、1・2年(11/30～12/3)		◎	○					
12	6章 空間図形 1節 立体と空間図形	1 いろいろな立体	◎	○	○	<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> 数学的活動を通して、その楽しさやよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養っている。		
	2 空間内の平面と直線	○	◎	○				
	3 立体の構成	○	◎	○				
冬季休業日(12/21～1/6)								
三 学 期	1	2節 立体の体積と表面積	1 立体の体積	◎	○	○	<p style="text-align: center;">評 価 方 法</p> 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
		2 立体の表面積	◎	○	○			
		7章 データの活用 1節 ヒストグラムと相対度数	1 データを活用して、問題を解決しよう	○	◎	○		
	2	2 整理されたデータから読みとろう	○	◎	○			
		2節 データにもとづく確率	1 相対度数と確率	○	◎	○		
		1章 式の計算 1節 式の計算	1 式の加法・減法 2 いろいろな多項式の計算	○	○	◎		
	3 単項式の乗法、除法		◎	○	○			
学年末考査3年(2/21～2/28) 学年末考査1・2年(2/22～2/28)		◎	○	○				
3	2節 文字式の利用	1 文字式の利用	◎	○	○	<p style="text-align: center;">備 考</p>		
	1 文字式の利用	◎	○	○				

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程)

教科	数学	学年	2	年	時間数	105	時間
----	----	----	---	---	-----	-----	----

教科書名	未来へひろがる数学2 未来へひろがる数学3	出版社名	啓林館
------	-----------------------	------	-----

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一 学 期	4	1章 式と計算 1節 式の計算	1 式の加法・減法 2 いろいろな多項式の計算	◎	○	○	<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> 文字式の計算について学習し、文字式を利用していろいろな問題を解決します。 連立二元一次方程式を用いて、文章題の解き方を学習します。 ともなって変わる2つの数量の関係について調べます。 図形の性質の調べ方や、あることがらが正しいことを示す方法を学びます。 図形についてのいろいろな性質を見つけて、それを証明していきます。 ものごとの起こりやすさについて学びます。 データを活用して問題を解決する方法を学びます。
		2節 文字式の利用	3 単項式の乗法、除法 1 文字式の利用 1 文字式の利用	◎	○	○	
	5	2章 連立方程式 1節 連立方程式	1 連立方程式とその解 2 連立方程式の解き方	○	◎	○	
		2節 連立方程式の利用	1 連立方程式の利用	○	◎	○	
		中間考査(5/18～5/19)	1 連立方程式の利用	○	◎	○	
	6	3章 一次関数 1節 一次関数とグラフ	1 一次関数 2 一次関数の値の変化 3 一次関数のグラフ 4 一次関数の式を求めること	◎	○	◎	
		2節 一次関数と方程式	1 方程式とグラフ 2 連立方程式とグラフ	◎	○	○	
7	期末考査3年(6/28～7/2)、1・2年(6/29～7/2)		○	◎	○		
	3節 一次関数の利用	1 一次関数の利用	○	◎	○		
	4章 図形の調べ方 1節 平行と合同	1 角と平行線 2 多角形の角 3 三角形の合同	◎	○	○		
夏季		夏季休業日(7/21～8/24)				・確率の意味を理解し、確率を求めることができる。 ・箱ひげ図について理解するとともに、データを正しく読み取り、それを使って問題を解決することができる。 ・数の概念の理解をいっそう深めるとともに、数を用いてものごとを広く、深く考察、処理することができる。	
二 学 期	8	2節 証明	1 証明とそのしくみ 2 証明の進め方	◎	○	○	<p style="text-align: center;">評 価 の 観 点</p> 知識・技能 数学的活動を通して、数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 <p style="text-align: center;">思 考 ・ 判 断 ・ 表 現</p> 数学的な見方・考え方を働かせ、数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し、統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 <p style="text-align: center;">主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度</p> 数学的活動を通して、その楽しさやよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養っている。
		5章 図形の性質と証明 1節 三角形	1 二等辺三角形 2 直角三角形の合同	◎	○	○	
	9	2節 四角形	1 平行四辺形の性質 2 平行四辺形になるための条件	◎	○	○	
		中間考査(10/5～10/6)	2 平行四辺形になるための条件	○	◎	○	
	10		3 いろいろな四角形 4 平行線と面積 5 四角形の性質の利用	○	○	◎	
		6章 場合の数と確率	1 確率の求め方	◎	○	○	
		1節 場合の数と確率	2 いろいろな確率 3 確率の利用 3 確率の利用	○	◎	○	
12	7章 箱ひげ図とデータの活用	1 箱ひげ図	◎	○	○		
	1節 箱ひげ図	2 データを活用して、問題解決をしよう 2 データを活用して、問題解決をしよう	○	◎	○		
冬季		冬季休業日(12/21～1/6)				<p style="text-align: center;">評 価 方 法</p> 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
三 学 期	1	1章 式の展開と因数分解	1 式の乗法、除法	◎	○	○	<p style="text-align: center;">備 考</p>
		1節 式の展開と因数分解	2 乗法の公式 3 因数分解	◎	○	○	
	2節 式の計算の利用	1 式の計算の利用 1 式の計算の利用	○	◎	○		
2	2章 平方根 1節 平方根	1 平方根 2 平方根の値	◎	○	◎		
	学年末考査3年(2/21～2/28) 学年末考査1・2年(2/22～2/28)	3 有理数と無理数	◎	○	○		
3		4 真の値と近似値	◎	○	◎		
		4 真の値と近似値	◎	○	◎		

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程)

教科	数 学	学年	3	年	時間数	140 時間
----	-----	----	---	---	-----	--------

教科書名	未来へひろがる数学3 改訂版 新編 数学A 改訂版 新編 数学I	出版社名	啓林館 数研出版
------	----------------------------------	------	----------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	1章 式の展開と因数分解 1節 式の展開と因数分解	1 式の乗法、除法 2 乗法の公式	◎	◎	◎	<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> <p>平方根の性質を学び、計算方法を学習します。二次方程式の解の求め方、文章問題の解き方を学習します。</p> <p>具体的な事象の中から、表・グラフ・式を使って、関数 $y=ax^2$ について理解します。</p> <p>三角形の相似条件を学び、相似の証明問題や線分の長さを相似比や三平方の定理を利用して求めていきます。「数学A」の平面図形・空間図形では、三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、論理的に考察し処理できるようにします。また、様々な長さの線分の作図を学習します。</p> <p>「数学I」は式の見方や展開、因数分解の仕方を学習し、連立不等式や絶対値記号を含む方程式、不等式について学習します。また、集合についての基本的な事項を理解し、命題などの考察を通して、論理的な思考力を伸ばします。</p> <p style="text-align: center;">学 習 の 到 達 目 標</p> <ul style="list-style-type: none"> 平方根の計算を用い、より広い範囲での計算をすることができる。 二次方程式を用いて実際の問題を解決したり、考察したりすることができる。 関数 $y=ax^2$ について、表・式・グラフ相互に関連付けることができる。また、関数 $y=ax^2$ を用いて具体的な事象をとらえ、説明できる。 三角形や円などの基本的な図形の性質について理解を深め、図形の性質を論理的に考察し処理することができる。 集合と論理について理解し、論理的な思考を伸ばすとともに、それらを命題などの考察に生かすことができる。 式の見方を豊かにし処理することで、不等式などの理解を深め、それらを活用できる。 <p style="text-align: center;">評 価 の 観 点</p> <p style="text-align: center;">知 識 ・ 技 能</p> <p>数学的活動を通して、数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</p> <p style="text-align: center;">思 考 ・ 判 断 ・ 表 現</p> <p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し、統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。</p> <p style="text-align: center;">主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度</p> <p>数学的活動を通して、その楽しさやよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養っている。</p> <p style="text-align: center;">評 価 方 法</p> <p>学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p style="text-align: center;">備 考</p>
		2節 式の計算の利用	1 式の計算の利用	◎	◎	◎	
		2章 平方根 1節 平方根	1 平方根 2 平方根の値 3 有理数と無理数	◎	◎	◎	
		2節 根号を含む式の計算	4 真の値と近似値 1 根号をふくむ式の乗法、除法	◎	◎	◎	
	5	3節 平方根の利用	2 根号をふくむ式の計算	◎	◎	◎	
		中間考査(5/18～5/19)	1 平方根の利用	◎	◎	◎	
		3章 二次方程式 1節 二次方程式	1 二次方程式とその解き方 2 二次方程式の解の公式	◎	◎	◎	
	6	2節 二次方程式の利用	1 二次方程式の利用	◎	◎	◎	
		4章 関数 $y=ax^2$ 1節 関数とグラフ	1 関数 $y=ax^2$ 2 関数 $y=ax^2$ のグラフ	◎	◎	◎	
		2節 関数 $y=ax^2$ の値の変化	1 関数 $y=ax^2$ の値の増減と変域	◎	◎	◎	
	7	期末考査3年(6/28～7/2)、1・2年(6/29～7/2)	2 関数 $y=ax^2$ の変化の割合	◎	◎	◎	
		3節 いろいろな事象と関数	1 関数 $y=ax^2$ の利用 2 いろいろな関数	◎	◎	◎	
5章 図形と相似 1節 図形と相似		1 相似な図形 2 三角形の相似条件	◎	◎	◎		
夏季		3 三角形の相似条件と証明	◎	◎	◎		
		夏季休業日(7/21～8/24)					
二 学 期	8	2節 平行線と線分の比	1 平行線と線分の比	◎	◎	◎	
		3節 相似な図形の計量	2 中点連結定理 1 相似な図形の面積	◎	◎	◎	
		4節 相似の利用	2 相似な立体の表面積・体積 1 相似の利用	◎	◎	◎	
	9	6章 円の性質 1節 円周角と中心角	1 円周角と中心角 2 演習角の定理の逆	◎	◎	◎	
		2節 円の性質の利用	1 円の性質の利用	◎	◎	◎	
	10	7章 三平方の定理 1節 直角三角形の3辺の関係	1 三平方の定理	◎	◎	◎	
		中間考査(10/5～10/6)		◎	◎	◎	
		2節 三平方の定理の利用	1 三平方の定理の利用	◎	◎	◎	
		8章 標本調査とデータの活用	1 標本調査の方法 2 母集団と標本の関係	◎	◎	◎	
	11	数学A 第2章 図形の性質 第1節 平面図形	3 データを活用して問題を解決しよう	◎	◎	◎	
			1 三角形の辺の比	◎	◎	◎	
			2 三角形の外心・内心・重心	◎	◎	◎	
		3 チェバの定理・メネラウスの定理	◎	◎	◎		
12	4 円に内接する四角形	◎	◎	◎			
	期末考査3年(11/29～12/3)、1・2年(11/30～12/3)	5 円と直線	◎	◎	◎		
	第2節 空間図形	6 2つの円 7 作図	◎	◎	◎		
冬季		8 直線と平面 9 空間図形と多面体	◎	◎	◎		
		章末問題	◎	◎	◎		
三 学 期	1	冬季休業日(12/21～1/6)					
		数学I 第1章 数と式 第1節 式の計算	1 整式の加法と減法 2 整式の乗法	◎	◎	◎	
			3 因数分解	◎	◎	◎	
			第2節 実数	4 実数 5 根号を含む式の計算	◎	◎	◎
			第3節 1次方程式	6 不等式の性質	◎	◎	◎
				7 1次不等式	◎	◎	◎
				章末問題	◎	◎	◎
	2	第2章 集合と命題	1 集合 2 命題と条件	◎	◎	◎	
		学年末考査3年(2/21～2/28) 学年末考査1・2年(2/22～2/28)	3 命題とその逆・対偶・裏	◎	◎	◎	
	3		4 命題と証明	◎	◎	◎	
			章末問題	◎	◎	◎	

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	数学	科目	数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A	学年	4年	類型	共通	単位数	3 1 2	単位
----	----	----	-------------------	----	----	----	----	-----	-------------	----

教科書名	改訂版 新編 数学Ⅰ	改訂版 新編 数学Ⅱ	改訂版 新編 数学A	出版社名	数研出版
------	------------	------------	------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	関	見	技	知		
一 学 期	4	数学Ⅰ 第1章 数と式	6 不等式の性質	7 1次不等式	◎	○	○	<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> <p>「数学Ⅰ」は、集合についての基本的な事項を理解し、命題などの考察を通して、論理的な思考力を伸ばします。また、前期課程で学んだ数学を踏まえて、更に発展させ、2次関数、図形と計量という高校数学の基礎・基本の分野に加えて、データの分析という分野を学習します。前期課程の数学と比べると内容が深くなっていますので、課題の量も多くなります。</p> <p>「数学A」は、具体的な事象を数学的に処理するための基礎を身に付ける科目です。整数の性質や場合の数と確率の分野を学習します。</p> <p>「数学Ⅱ」は、「数学Ⅰ」、「数学A」より進んだ内容として、方程式・式と証明を学習します。</p> <p>教科書レベルでは入試に対応できませんから、問題集「クリアー数学(数研出版)」を併用しながら、模試問題なども解いていきます。</p> <p style="text-align: center;">学 習 の 到 達 目 標</p> <p>・集合と論理について理解し、論理的な思考を伸ばすとともに、それらを命題などの考察に生かすことができる。</p> <p>・2次関数のグラフを利用して、最大値・最小値の問題、2次不等式の問題などを解くことができる。</p> <p>・いろいろな図形の計量に、正弦定理、余弦定理、面積公式を活用できる。</p> <p>・ヒストグラムや箱ひげ図を利用して、データの分布を表現できる。</p> <p>・実生活における具体的な例を通して場合の数や確率を求めることができる。</p> <p>・高次方程式を解くことができる。</p> <p style="text-align: center;">評 価 の 観 点</p> <p style="text-align: center;">関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度</p> <p>数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしている。</p> <p style="text-align: center;">数 学 的 な 見 方 や 考 え 方</p> <p>事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。</p> <p style="text-align: center;">数 学 的 な 技 能</p> <p>事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。</p> <p style="text-align: center;">知 識 ・ 理 解</p> <p>数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。</p> <p style="text-align: center;">評 価 方 法</p> <p>学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「数学的な見方や考え方」、「数学的な技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p style="text-align: center;">備 考</p>	
		数学Ⅰ 第3節 1次不等式	8 絶対値を含む方程式・不等式		○	○	◎		○
		数学Ⅰ 第2章 集合と命題	1 集合		◎	○	◎		○
			2 命題と条件			◎	○		○
		3 命題とその逆・対偶・裏		○	○	◎	○		
		4 命題と証明		○	◎	○	○		
	5	中間考査(5/18～5/21)			○	○	◎		
			章末問題	○	◎	◎	○		
		数学Ⅰ 第3章 2次関数	1 関数とグラフ		○	○	◎		
		第1節 2次関数とグラフ	2 2次関数のグラフ		○	○	◎		
		第2節 2次関数の値の変化	3 2次関数の最大・最小		○	○	◎		
			4 2次関数の決定	◎	○	○	○		
		期末考査(6/28～7/2)			○	○	◎		
		第3節 2次方程式と2次不等式	5 2次方程式		◎	○	○		
		6 2次関数のグラフとx軸の位置関係		○	◎	○			
		7 2次不等式	◎	○	○	○			
夏季		夏季休業日(7/21～8/24)							
二 学 期	8	数学A 第1章 場合の数と確率	1 集合の要素の個数	2 場合の数	○	○	◎		
		第1節 場合の数	3 順列	4 組合せ	○	○	◎		
		第2節 確率	5 事象と確率	6 確率の基本性質	○	○	◎		
	9		7 独立な試行と確率		○	○	◎		
			8 条件付き確率		○	○	◎		
		第4章 図形と計量	1 三角比	2 三角比の相互関係	○	○	◎		
		中間考査4・6年(10/5～10/8)			○	○	◎		
		第1節 三角比	3 三角比の拡張		○	◎	○		
		第2節 三角形への応用	4 正弦定理		◎	○	○		
			5 余弦定理		◎	○	○		
			6 正弦定理と余弦定理の応用			○	◎		
		第5章 データの分析	1 データの整理	2 データの代表値	○	○	◎		
			3 データの散らばりと四分位数	4 分散と標準偏差	○	○	◎		
			5 データの相関	6 表計算ソフトによるデータの分析	○	○	◎		
	期末考査(11/29～12/3)			○	○	◎			
	第3章 整数の性質	1 約数と倍数	2 最大公約数・最小公倍数	○	○	◎			
	第1節 約数と倍数	3 整数の割り算と商・余り		○	◎	○			
	第2節 ユークリッドの互除法	4 ユークリッドの互除法	5 1次不定方程式	○	○	◎			
冬季		冬季休業日(12/21～1/6)							
三 学 期	1	第3節 整数の性質の活用	6 分散と小数	7 n進法		○	○	◎	
		数学Ⅱ 第1章 式と証明	1 3次式の展開と因数分解	2 二項定理	○	○	◎	○	
		第1節 式と計算	3 整式の割り算			○	○	◎	
			4 分式とその計算	5 恒等式		○		◎	
		第2節 等式・不等式の証明	6 等式の証明		○	○	◎	○	
			7 不等式の証明			○	○	◎	
		第2章 複素数と方程式	1 複素数とその計算	2 2次方程式の解	○	○	◎	○	
	学年末考査4・5年(2/21～2/28)				○	○	◎		
	3	第1節 複素数と2次方程式の解	3 解と係数の関係			◎	○		
		第2節 高次方程式	4 剰余の定理と因数定理	5 高次方程式	○	◎	○	○	

シ ラ バ ス
令和3年度

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	数学	科目	数学Ⅱ 数学B	学年	5 年	類型	グローバル文科系	単位数	3 2	単位
----	----	----	------------	----	-----	----	----------	-----	--------	----

教科書名	改訂版 新編 数学Ⅱ 改訂版 新編 数学B	出版社名	数 研 出 版
------	-----------------------	------	---------

学期	月	指 導 計 画		評 価 の 観 点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	関	見	技	知	
一 学 期	4	数学Ⅱ 第2章 複素数と方程式	1 複素数とその計算 2 2次方程式の解	○	◎	○	○	<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> <p>「数学Ⅱ」は、複素数と方程式、図形と方程式、三角・指数・対数関数、微分と積分について、「数学Ⅰ」で学んだ基礎・基本をもとに、より深い内容を学習し、楽しさを体得します。「数学B」は、「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」より進んだ内容として、ベクトルと数列について学習します。</p> <p>教科書レベルでは入試に対応できませんから、問題集「クリアー数学Ⅱ+B(数研出版)」を活用しつつ、模試問題なども解いていきます。</p> <p style="text-align: center;">学 習 の 到 達 目 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な関数の特徴をグラフで描いてとらえることができる。 ・微分・積分の考え方により、関数の値の変化や面積を求めることができる。 ・ベクトルの演算ができる。 ・基本的な図形の性質や関係にベクトルを活用できる。 ・数列の規則性を把握できる。 ・数学的帰納法を用いて証明することができる。
		第1節 複素数と2次方程式の解	3 解と係数の関係	○	○	◎	○	
		第2節 高次方程式	4 剰余の定理と因数定理 5 高次方程式	○	○	◎	○	
		第3章 図形と方程式	1 直線上の点 2 平面上の点	○	◎	○	○	
	5	第2節 円 第3節 軌跡と領域	3 直線の方程式 4 2直線の関係	○	○	◎	○	
		中間考査(5/18～5/21)	5 円の方程式 6 円と直線 7 2つの円	○	○	◎	○	
			7 2つの円 8 軌跡と方程式		◎	○	○	
	6	第4章 三角関数	9 不等式の表す領域		◎	○	○	
		第1節 三角関数	1 角の拡張 2 三角関数 3 三角関数のグラフ	○	○	◎	○	
		第2節 加法定理	4 三角関数の性質 5 三角関数を含む方程式、不等式	○	◎	○		
		期末考査(6/28～7/2)	6 三角関数の加法定理 7 加法定理の応用	○	◎	○		
	7	第5章 指数関数と対数関数	1 指数の拡張 2 指数関数 3 対数とその性質	○	◎	○		
第1節 指数関数 第2節 対数関数		4 対数関数 5 常用対数		◎	○	○		
二 学 期	8	第6章 微分法と積分法	1 微分係数 2 導関数とその計算	○	○	◎	○	<p style="text-align: center;">評 価 の 観 点</p> <p style="text-align: center;">関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度</p> <p>数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしている。</p> <p style="text-align: center;">数 学 的 な 見 方 や 考 え 方</p> <p>事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。</p> <p style="text-align: center;">数 学 的 な 技 能</p> <p>事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。</p> <p style="text-align: center;">知 識 ・ 理 解</p> <p>数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。</p> <p style="text-align: center;">評 価 方 法</p> <p>学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「数学的な見方や考え方」、「数学的な技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p style="text-align: center;">備 考</p>
		第1節 微分係数と導関数	3 接線の方程式		○	◎	○	
		第2節 関数の値の変化	4 関数の増減と極大・極小		○	◎	○	
		中間考査5年(9/28～10/1)	5 関数の増減・グラフの応用			◎	○	
	9	中間考査4・6年(10/5～10/8)	6 不定積分		◎	○		
		第3節 積分法	7 定積分		○	○	◎	
			8 定積分と図形の面積		○	◎	○	
	10	第3章 数列	1 数列と一般項		○	◎	○	
		第1節 等差数列と等比数列	2 等差数列 3 等差数列の和	◎	○	○		
		第2節 いろいろな数列	4 等比数列 5 等比数列の和		◎	○		
		期末考査(11/29～12/3)	6 和の記号Σ		◎	○		
	11	第3節 数学的帰納法	7 階差数列 8 いろいろな数列の和		◎	○		
		9 漸化式 10 数学的帰納法		○	◎	○		
				○	◎	○		
三 学 期	1	数学B 第1章 平面上のベクトル	1 ベクトル 2 ベクトルの演算	○	◎	○		
		第1節 ベクトルとその演算	3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積	○	◎	○		
		第2節 ベクトルと平面図形	5 位置ベクトル		○	◎	○	
			6 ベクトルの図形への応用			◎	○	
	2		7 図形のベクトルによる表示		◎	○	○	
		第2章 空間のベクトル	1 空間の点 2 空間のベクトル		◎	○	○	
		学年末考査4・5年(2/21～2/28)			◎	○	○	
	3		3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積		○	○	◎	
			5 ベクトルの図形への応用 6 座標空間における図形		○	○	◎	

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	数学	科目	数学Ⅱ 数学Ⅲ 数学B	学年	5 年	類型	グローバル理科系	単位数	3 1 2	単位
----	----	----	-------------------	----	-----	----	----------	-----	-------------	----

教科書名	改訂版 新編 数学Ⅱ	改訂版 新編 数学Ⅲ	改訂版 新編 数学B	出版社名	数研出版
------	------------	------------	------------	------	------

学期	月	指導計画			評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容		関	見	技	知		
一 学 期	4	数学Ⅱ 第2章 複素数と方程式	1 複素数とその計算		○	○	○	◎	授業の概要 「数学Ⅱ」では、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数・対数関数、微分法と積分法を学習します。 「数学B」では、「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」より進んだ内容として、ベクトルと数列について学習します。 「数学Ⅲ」では、これまでの知識を総合しながら、関数、極限、微分法について学習します。 教科書だけでは入試に対応できませんから、問題集「クリアー」を使用しながら、学力の定着を図ります。	
		第1節 複素数と2次方程式の解	2 2次方程式の解	3 解と係数の関係			◎	○		
		第2節 高次方程式	4 剰余の定理と因数定理	5 高次方程式		○	◎	○		
		第3章 図形と方程式	1 直線上の点	2 平面上の点	3 直線の方程式	○	◎	○		○
	5	第1節 点と直線	4 2直線の関係	5 円の方程式	6 円と直線	○	○	◎		○
		第2節 円 第3節 軌跡と領域	7 2つの円	8 軌跡と方程式	9 不等式の表す領域	○		◎		○
		中間考査(5/18～5/21)					◎	○		○
		第4章 三角関数	1 角の拡張	2 三角関数	3 三角関数のグラフ		◎	○		○
	6	第1節 三角関数	4 三角関数の性質	5 三角関数を含む方程式・不等式		○	○	◎		○
		第2節 加法定理	6 三角関数の加法定理	7 加法定理の応用		○	◎	○		
		第5章 指数関数と対数関数	1 指数の拡張	2 指数関数		○	◎	○		
		第1節 指数関数 第2節 対数関数	3 対数とその性質			○	◎	○		
7	期末考査(6/28～7/2)					◎	○	○		
	第6章 微分法と積分法	4 対数関数	5 常用対数		○	◎	○			
	第1節 微分係数と導関数	1 微分係数	2 導関数とその計算		○		○	◎		
	第2節 接線の方程式	3 接線の方程式	4 関数の増減と極大・極小			◎	○	○		
二 学 期	8	夏季休業日(7/21～8/24)							学習の到達目標 ・複素数を含む計算ができる。 ・解と係数の関係や剰余の定理を活用できる。 ・因数定理を理解し、高次方程式を解くことができる。 ・いろいろな関数の特徴をグラフで描いて捉えることができる。 ・微分・積分の考え方により、関数の値の変化や面積を求めることができる。 ・基本的な図形の性質や関係にベクトルを活用できる。 ・数列の規則性を把握できる。 ・数学的帰納法を用いて証明することができる。 ・いろいろな関数の極限を計算することができる。 ・三角関数及び指数、対数関数の導関数を求めることができる。	
		第2節 関数の値の変化	5 関数の増減・グラフの応用			○	◎	○		
		第3節 積分法	6 不定積分	7 定積分	8 定積分と図形の面積		○	◎		○
		数学B 第1章 平面上のベクトル	1 ベクトル	2 ベクトルの演算		○	◎	○		
	9	第1節 ベクトルとその演算	3 ベクトルの成分	4 ベクトルの内積		○	◎	○		
		第2節 ベクトルと平面図形	5 位置ベクトル				○	○		◎
		中間考査5年(9/28～10/1)					○	◎		○
		中間考査4・6年(10/5～10/8)	6 ベクトルの図形への応用				○	◎		○
	10	第2章 空間のベクトル	7 図形のベクトルによる表示				◎	○		○
		第1節 空間の点	1 空間の点	2 空間のベクトル	3 ベクトルの成分	○	◎	○		○
		第2節 空間の内積	4 ベクトルの内積	5 ベクトルの図形への応用		○	○	◎		
		第3章 数列	6 座標空間における図形				○	○		◎
11	第1節 等差数列と等比数列	1 数列と一般項	2 等差数列	3 等差数列の和	○	◎	○			
	第2節 いろいろな数列	4 等比数列	5 等比数列の和		○	○	◎			
	第2節 いろいろな数列	6 和の記号Σ			◎	○	○			
	期末考査(11/29～12/3)					○	◎	○		
12	第3節 数学的帰納法	7 階差数列	8 いろいろな数列の和		◎	○	○			
	第3節 数学的帰納法	9 漸化式				◎	○			
	第3節 数学的帰納法	10 数学的帰納法				◎	○			
	冬季休業日(12/21～1/6)									
三 学 期	1	数学Ⅲ 第3章 関数	1 分数関数	2 無理関数		○	○	◎	評価方法 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「数学的な見方や考え方」、「数学的な技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評価します。	
		第4章 極限	3 逆関数と合成関数			○	○	◎		
		第1節 数列の極限	1 数列の極限	2 無限等比数列			○	◎		○
		第2節 関数の極限	3 無限級数				○	◎		○
	2	第1節 関数の極限	4 関数の極限(1)	5 関数の極限(2)		○	◎	○		
		第2節 関数の極限	6 三角関数と極限	7 関数の連続性		○	◎	○		
		第5章 微分法	1 微分係数と導関数	2 導関数の計算			◎	○		○
		学年末考査4・5年(2/21～2/28)					◎	○		○
	3	第1節 導関数	3 いろいろな関数の導関数	4 第n次導関数		○	◎	○		
		第2節 いろいろな関数の導関数	5 曲線の方程式と導関数			○	◎	○		
		第2節 いろいろな関数の導関数					◎	○		○
		第2節 いろいろな関数の導関数					◎	○		○

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	数学	科目	数学研究Ⅰ 数学研究Ⅱ	学年	6年	類型	グローバル文科系	単位数	2 3	単位
----	----	----	----------------	----	----	----	----------	-----	--------	----

教科書名	自作教科書(数学研究Ⅰ・Ⅱ)	出版社名	宇和島南中等教育学校
------	----------------	------	------------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	見	技	知	
一学期	4	問題演習	1 ベクトル	○	○	◎	○	授業の概要 数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学Bの範囲を系統的に学習します。大学入学共通テスト対策、国公立大学2次試験レベルの問題を解きます。精選された問題を通して、考える力、応用力を身に付けます。
			2 式と証明	○	○	◎	○	
			3 複素数と方程式	○	○	◎	○	
			4 図形と方程式	○	○	◎	○	
			5 三角関数	○	○	◎	○	
			6 指数・対数関数	○	○	◎	○	
	5	中間考査(5/18～5/21)			○	○	◎	
6	問題演習	7 微分法・積分法	○	○	◎	○	学習の到達目標 ・大学入学共通テスト、国公立大学2次試験レベルの問題を解くことができる。	
		8 数列	○	◎	○	○		
		1 数と式	○	○	◎	○		
		2 2次関数	○	○	◎	○		
7	期末考査(6/28～7/2)	3 図形と計量	○	◎	○	○		
		4 集合と論理	○	○	○	◎		
		5 データの分析	○	○	○	◎		
8	夏季休業日(7/21～8/24)	6 場合の数・確率	○	◎	○	○		
二学期	9	総合問題演習	7 図形の性質	○	◎	○	○	評価の観点 関心・意欲・態度 数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしている。
			8 整数の性質	○	○	◎	○	
			1 2次方程式の解の判別 2 2次方程式の解と係数の関係 3 高次方程式	◎	◎	○		
			4 文字係数を含む不等式・絶対値を含む不等式	◎	◎	○		
			5 最大最小・2次方程式の解の存在範囲	◎	◎	○		
	10	中間考査5年(9/28～10/1)	6 三角関数の方程式・不等式 7 指数関数	◎	◎	○		
			中間考査4・6年(10/5～10/8)	○	○	◎		
	11		8 三角比・三角関数 9 平面図形	◎	◎	○	数学的な見方や考え方	
			10 接線 11 極値	◎	◎	○	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	
			12 最大最小 13 方程式の解の個数	◎	◎	○	数学的な技能	
14 定積分で表された関数 15 面積の計算			◎	◎	○	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。		
12	期末考査(11/29～12/3)	16 面積の等分 17 等差数列・等比数列	◎	◎	○			
		18 Σ の計算・階差数列	◎	◎	○			
		19 いろいろな数列の和・群数列・漸化式	◎	◎	○			
冬季	冬季休業日(12/21～1/6)	20 重複組み合わせ・二項定理	◎	◎	○	知識・理解		
		21 反復試行の確率・条件付き確率	◎	◎	○	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。		
		22 命題と論証・整数 23 平面ベクトル	◎	◎	○			
三学期	1	家庭学習	24 空間ベクトル 25 ベクトル方程式	◎	◎	○	評価方法	
			26 整数解をもつ方程式 27 素数	◎	◎	○	学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「数学的な見方や考え方」、「数学的な技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
			27 素数	◎	◎	○		
			28 超精選問題演習	◎	◎	○		
	2	学年末考査4・5年(2/21～2/28)	○	○	○	○	備考	
3		○	○	○	○			

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	数学	科目	数学Ⅲ 数学研究Ⅱ	学年	6 年	類型	グローバル理科系	単位数	4 2	単位
----	----	----	--------------	----	-----	----	----------	-----	--------	----

教科書名	改訂版 新編 数学Ⅲ 自作教科書 数学研究Ⅱ	出版社名	数研出版 宇和島南中等教育学校
------	------------------------	------	-----------------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	関	見	技	知		
一 学 期	4	第4章 極限 第1節 数列の極限	1 数列の極限	○	○	◎		<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> <p>「数学Ⅲ」では、これまでの知識を総合しながら、関数、極限、微分法、微分法的应用、積分法、積分法的应用、複素数平面について学びます。教科書だけでは入試に対応できませんから、問題集「クリアー」を使用しながら、学力定着を図ります。</p> <p>「数学研究Ⅱ」では、大学入学共通テストに対応するため、問題演習で実力を養います。</p> <p style="text-align: center;">学 習 の 到 達 目 標</p> <p>関数の積及び商の導関数、合成関数の導関数について理解し、求めることができる。 ・三角関数、指数関数及び対数関数の導関数について理解し、求めることができる。 ・導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方程式を求めたり、いろいろな関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べグラフの概形を描くことができる。 ・積分法について理解を深めるとともに、その有用性を認識し、面積、体積及び曲線の長さなどの事象の考察に活用できる。 ・複素数平面について理解し、それらを事象の考察に活用できる。 ・数学ⅠAⅡBの学習内容について理解し、それらを事象の考察に活用できる。</p> <p style="text-align: center;">評 価 の 観 点</p> <p style="text-align: center;">関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度</p> <p>数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしている。</p> <p style="text-align: center;">数 学 的 な 見 方 や 考 え 方</p> <p>事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。</p> <p style="text-align: center;">数 学 的 な 技 能</p> <p>事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。</p> <p style="text-align: center;">知 識 ・ 理 解</p> <p>数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。</p> <p style="text-align: center;">評 価 方 法</p> <p>学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「数学的な見方や考え方」、「数学的な技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p style="text-align: center;">備 考</p>	
		第2節 関数の極限	4 関数の極限(1) 5 関数の極限(2) 6 三角関数と極限 7 関数の連続性	○	◎	○			
	5	第5章 微分法 第1節 導関数	1 微分係数と導関数 2 導関数の計算	○	○	◎			
		第2節 いろいろな関数の導関数	3 いろいろな関数の導関数	○	○	◎			
		中間考査(5/18~5/21)			◎	◎	○		
		第2節 いろいろな関数の導関数	4 第n次導関数 5 曲線の方程式と導関数	○	◎	○			
	6	第6章 微分法的应用 第1節 導関数の应用	1 接線の方程式 2 平均値の定理 3 関数の値の変化	○	○	◎	○		
		第2節 いろいろな应用	4 関数のグラフ 5 方程式、不等式への应用 6 速度と加速度 7 近似式	○	○	◎	○		
		期末考査(6/28~7/2)			○	◎	◎		
	7	第7章 積分法とその应用 第1節 不定積分	1 不定積分とその基本性質 2 置換積分法と部分積分法	○	◎	○			
		第2節 定積分	3 いろいろな関数の不定積分 4 定積分とその基本性質 5 置換積分法と部分積分法	○	○	◎	○		
		夏季休業日(7/21~8/24)							
	二 学 期	8	第2節 定積分	6 定積分のいろいろな問題	○	○	◎		○
			第3節 積分法的应用	7 面積 8 体積		○	◎		○
9		第1章 複素数平面	9 道のり 10 曲線の長さ 1 複素数平面 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理	○	○	◎	○		
		中間考査5年(9/28~10/1)	4 複素数と図形	○	○	◎			
		中間考査4・6年(10/5~10/8)			◎	○	◎		
10		問題演習	1 2次方程式の解の判別 2 2次方程式の解と係数の関係 3 高次方程式 4 文字係数を含む不等式・絶対値を含む不等式	◎	◎	○			
			5 最大最小・2次方程式の解の存在範囲 6 三角関数の方程式・不等式 7 指数関数 8 三角比・三角関数	◎	◎	○			
11			9 平面図形 10 接線 11 極値 12 最大最小 13 方程式の解の個数 14 定積分で表された関数 15 面積の計算	◎	◎	○			
			16 面積の等分 17 等差数列・等比数列 18 Σの計算・階差数列	◎	◎	○			
		期末考査(11/29~12/3)			○	○	◎		
12		19 いろいろな数列の和・群数列・漸化式 20 重複組み合わせ・二項定理	◎	◎	○				
		21 反復試行の確率・条件付き確率 22 命題と論証・整数 23 平面ベクトル 24 空間ベクトル 25 ベクトル方程式 26 整数解をもつ方程式 27 素数	◎	◎	○				
	冬季休業日(12/21~1/6)								
三 学 期	1	数学Ⅲ総合演習	28 超精選問題演習 1 関数 2 極限 3 微分法 4 積分法 家庭学習	○	◎	◎	○		
				○	○	○	○		
	2			○	○	○	○		
		学年末考査4・5年(2/21~2/28)		○	○	○	○		
3			○	○	○	○			

シ ラ バ ス
令和3年度

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	数学	科目	実用数学	学年	6 年	類型	グローバル文科系	単位数	3	単位
----	----	----	------	----	-----	----	----------	-----	---	----

教科書名	自作教科書(実用数学)	出版社名	宇和島南中等教育学校
------	-------------	------	------------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	関	見	技	知	
一 学 期	4	基本問題演習	1 数と式、集合と命題	○	○	◎		<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> 数学Ⅰ、数学Aの範囲を系統的に学習します。専門学校入試対策、大学入学共通テスト対策、私立大学入試対策として、幅広い形式の問題を扱います。精選された問題を通して、考える力、応用力を身に付けます。
			2 2次関数	○	◎	○	○	
	5	中間考査(5/18～5/21)	3 図形と計量	◎	○	○		
			4 データの分析	○	○	◎		
			5 場合の数と確率	○	○	◎		
	7	期末考査(6/28～7/2)	6 図形の性質	○	○	◎		
			6 図形の性質	◎	○	○		
二 学 期	8	夏季休業日(7/21～8/24)	7 整数の性質	○	○	◎		<p style="text-align: center;">学 習 の 到 達 目 標</p> ・専門学校入試問題、大学入学共通テスト、私立大学入試問題を解くことができる。
			7 整数の性質	◎	◎	○		
	9	実用問題演習	1 数と式、集合と命題	○	◎	○		
			2 2次関数	○	◎	○		
			3 図形と計量	◎	○	○		
	10	中間考査5年(9/28～10/1) 中間考査4・6年(10/5～10/8)	4 データの分析	○	◎	◎		
			5 場合の数と確率	○	◎	◎		
			6 図形の性質	◎	○	○		
			7 整数の性質	◎	○	○		
	12	期末考査(11/29～12/3)	7 整数の性質	○	○	◎		
7 整数の性質			◎	○	○			
三 学 期	1	総合問題演習	1 数と式、集合と命題	◎	◎	○		<p style="text-align: center;">評 価 方 法</p> 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「数学的な見方や考え方」、「数学的な技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
			3 図形と計量	◎	◎	○		
	5 場合の数と確率	◎	◎	○				
	7 整数の性質	◎	◎	○				
	家庭学習	○	○	○				
	2	学年末考査4・5年(2/21～2/28)	4 データの分析	○	○	○		
			6 図形の性質	○	○	○		
3				○	○	○		